

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	分かりやすい言葉で、利用者が書いてくれた(直筆)理念を掲示している。開設当初からの分と、19年度に付け加えた分の2枚がある。利用者も声に出してよく読んでいます。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が把握し、理念を共通の目標とし、達成に向けて努力している。会議や日々の話し合いの中でも、常に意識した取り組みが実施されている。また、掲示してある理念を見ることで、いつも頭の中に浸透されているように思う。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	機会あるごとに、理念について日々取り組んでいる内容などを話し、理解を求めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム周辺の散歩、近所の商店での買い物など、日々関わりを持ち、お互いが気軽に声かけができています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	季節の行事や老人会、子ども会などの地域活動に積極的に参加し、利用者の楽しみになっている。地域の行事には、ほとんど参加できている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームでの行事の参加、また民生委員を通じて、地域の在宅の高齢者(特に独居の方)の悩みを聞き、相談に応じている。	○	今後、町内会への参加や清掃ボランティアなどを実施していきたいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、再確認している。日常では見落としている点もあり、評価をきっかけに改善できている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や活動の報告等を行い、家族や民生委員、地域包括の職員から様々な意見をいただいている。率直な意見は貴重で、日常の取り組みに反映されている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課の担当の方に何度も相談し、指導していただいた。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	8月に権利擁護に関する勉強会を実施した。外部研修に参加した職員(管理者)が講師となり、全職員が勉強した。また、家族の方にも情報を提供している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内外での研修で学んでいる。他の部署の職員の参加の場合も報告会などで情報を得ている。また、日々の職員の態度や、利用者の状態を観察し、虐待が見過ごされることがないよう努めている。事業所内で虐待はない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や不信感を感じないよう、必ず十分な説明を行い、理解・納得の上で行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で、時々洩らす愚痴を重く受け止め、必ず対応するようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「野バラだより」を発行し、行事や暮らしぶりを掲載している。また、詳しい内容については、手紙や写真にて報告し、とても喜んでもらっている。金銭管理、職員の異動についても適宜報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会あるごとに、困ったことや改善すべきことはないか、聞いている。行事やサービス内容については、個々に意見を聞いた。また、玄関に意見箱を設置し、自由に書いてもらえるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で話し合ったり、日々の業務の中で意見や提案が出されている。すぐに話し合い、迅速な対応を心がけている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	生活リズムに合った勤務体制が組まれている。また、状況の変化や要望には臨機応変に対応している。職員もいつも協力的である。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は仕方ないが、異動についてはできるだけ最小限に抑さえ、新しい職員が慣れるまでは全員で協力する。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、職員研修会を実施し、各職員が講師となっている。施設外では、グループホーム協会や社協の研修を中心に、積極的に参加している。また、資格取得のための勉強会への参加は、勤務などを配慮している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の見学を、年間計画に取り入れ実施した。マンネリ化を防ぎ、サービスの質の向上に繋がっている。	○	引き続き、他の事業所訪問・見学を実施し、向上に反映させていく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	福利厚生により、ボーリング大会や旅行を実施している。また、私的に旅行などに出かけれるよう、勤務調整など配慮している。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得の昇給制度、人事考課など取り入れている。また、資格取得の勉強の際には、全職員の協力体制を得られている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者本人の生活や心身の状況を把握し、ゆっくりと聞き取りを行い、希望や不安を理解するよう努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の利用者に対する思いや現状、求めていることを理解し、受け止めることにより、信頼関係を築いていけるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内に特養、ショートステイ、通所、訪問等のサービスが充実している。また、医師や他事業所のケアマネとも連携しながら、一番良い方法を選択してもらっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内の他施設から入居した方は、遊びに来てもらい、しばらく過ごす中で慣れていった。他施設や在宅からの方は、まず見学をしていただき、一緒に過ごしたり、居室を見ていただき雰囲気を感じていただく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の中で、人生の先輩としていろいろなことを教えていただき、助け合い、支えあう中で信頼が生まれ、家族のような温かい関係ができています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の心情を理解し、お互い相談し合う関係を築いている。本人の生活を共に支えていく姿勢を常に心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が手紙を出すことを支援したことで、疎遠だった家族とも繋がりが持て、返事の手紙をいただいた。本人、家族とも喜ばれている。	○	手紙の支援は充実したので、電話の支援を何度か試みた。好評であるため、継続していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の馴染みの場所への訪問、墓参り、住んでいた家に行ったり、古くからの友人に会ったり、手紙や電話など様々な方法で支援を続けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の、個性に合った仲良しグループが自然にできている。孤立しがちな方は、職員が配慮し自然に入っていけるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ入居しても、面会に行くなど関係を継続している。家族の方には、手紙や電話などで関わりを持ち、必要があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつも一人ひとりの思いや希望を最優先したケアを心がけている。困難な内容であったり、迅速な対応が無理な場合は、職員全員で話し合い、より良い方法を検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活や回想法を通して、本人から馴染みの暮らし方を聞くことができている。家族にも、生活歴や生活環境などを聞かせていただいている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	多角的に注意深く観察し、現状を正しく把握できるよう努めている。特に認知症が進んでいる方は、状態が定まらず不安定であるため、変化を逃さず、全員で共有し対応に当たっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望に沿うことを最優先し、ケアに関わっている全職員が話し合い、医師や看護師、栄養士、理学療法士の意見も反映している。また、センター方式を取り入れている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月末に介護計画の実施状況を評価し、家族にも見てもらっている。評価した事を、次月に反映できるよう努めている。また、3ヶ月に1回は見直しを行い、介護計画の変更を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化のあったこと等、詳しく介護記録に記入している。また、介護記録と介護計画を連動した様式にしており、見直しに活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的な医師の往診、他病院への通院支援、法人内の他施設での行事参加等対応している。今のところ利用はないが、ショートステイも利用可能な体制となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	実習生やボランティアの受け入れ、保育所、小中学校との交流等、積極的に実施している。周辺の様々な施設や消防等とも連携を図るよう努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	外部のケアマネとも連携を図り、様々な情報をいただいている。図書館利用や町内会の行事参加、訪問美容サービスも活用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して様々なアドバイスをいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族に必ず確認し、希望する病院に受診し、継続した治療と通院も対応している。どの病院も、認知症の方に対して、適切な対応をしてくれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門の医師と良い関係が作られており、随時相談している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1回定期的な訪問があり、バイタル測定、状態観察、相談など行っており、9名の利用者の把握ができています。常時連絡し、訪問や処置など対応できている。介護計画作成時にも意見をもらい、反映している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	頻繁に連絡を取り合い、協働できている。入院時は、度々面会に行き、状況把握に努めている。また、退院し、ホームでの生活に戻ることで、落ち着く利用者が多いことから、早期の退院を支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応の指針を定め、家族への説明を行っている。医師からの説明も実施し、状態の変化に合わせて随時連絡を取り合っている。本人や家族の希望を優先し、できるだけ対応している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員の連携、力量、他の利用者への影響等、様々なことを考慮し、体制作りに取り組んでいる。重度化した方については、家族の意向を優先し、医師、看護師と連携を取りながら安心して過ごしていただけるよう支援している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族、医師や関わるケア関係者間で十分に話し合い、情報を提供している。今までの暮らしが継続できるよう、連携を図り対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを大切にし、個々に合わせた言葉かけや対応などを心がけている。常に尊敬の念を持ち接している。また、記録に関しては、取り扱いに全職員が十分に配慮し、個人情報保護の勉強も行っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定ができ、希望を表せる利用者については、選んだり決めたりすることをゆつくりと待ち、職員側から決めることはない。表せない方も、表情から読み取ったり、大体のことは理解できるので、必ず希望を聞くようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まりはなく、その日の状態に合わせて「したいこと」ができるよう支援している。また、個々のペースや希望に合わせた支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々に希望する美容院に行ったり、更衣介助の時には、本人に服を選んでもらっている。乳液やクリームをつけたり、毛剃りや化粧など個々に合った身だしなみに気を配っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、調理、片付けと、生き活きとした表情で行っている。職員は、教えてもらいながら感謝の気持ちをいつも伝えるようにしている。食事は職員も一緒にいただいている。食器なども個々の好みや使い易さに応じたものを使用している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーやその他の嗜好品、おやつ等も好みに合わせて毎日楽しめるように支援している。	○	嗜好は変化していくので、初めの情報に捉われず、気を配ることが必要。食に対する満足は、常に重要視したい項目である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握できており、日中は布のパンツで過ごすことができている。また、プライドを傷つけない言葉かけなど十分に配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	16時頃から就寝まで、入浴時間を取っており、入浴の好きな方は毎日入っている。個々の好みの湯加減や習慣を大事にしている。男性職員が2名いるが、抵抗のある方については、女性職員が交代して介助にあたっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促すことも必要であるが、好きな時に昼寝や休息をとってもらっている。夜間は、水分補給や安心して眠れるような言葉かけを心がけており、室内温度や照明を個々の好みに合わせている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や昔からの行事や慣わしの準備など、職員にはできないことをお願いし、教えてもらい一緒に行っている。裁縫や農作業、家事など、個々に得意なことをしてもらおうことで自信に繋がっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との相談により、一人ひとりの力量や希望に応じて支援している。少額だけ自分で持ち、安心感を持つことができた、おやつ等の買い物をしている。	○	紛失してしまったり、他の利用者にあげたりする人に関しては、職員が作ったお札を財布に入れ、様子を見ているところである。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に合わせて、買い物、ドライブ、散歩、外食、墓参りなどの外出を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足、阿波踊り見物や外食会、ホテル見物や花火大会等の夜間外出など行っている。家族様の参加も多く、とても喜ばれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんどの方に、家族様に手紙を書く支援を行っている。本人にとっても、家族様にとっても良い交流になっている。また、家族様より電話や手紙をいただくこともある。	○	離れていて、なかなか会えない子どもさんに電話をかけるプランを作成し、実施している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問した際には、自室でゆったりと過ごしていただくことができています。慣れた方であれば、ホールで他の利用者を交えて談笑している。また、ケアハウスの喫茶コーナーを利用したり、宿泊できるゲストルームもあり、県外からの面会の方は、いつも利用している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の安全を確保しながら、様々な工夫により身体拘束をしないケアを実践している。また、勉強会に参加し、身体拘束に関する理解も深めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階であるが、日中はどのドアや窓にも鍵をかけていない。ドアには、開閉時に音楽が鳴るセンサーをつけている。1階であることや、鍵をかけていないことで、気分的に開放され落ち着いている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	声かけや、さりげない見守りで全員で状態を把握するように努めている。夜間は、1～2時間毎に確認し、いつも全体が見渡せる場所で配置している。自力歩行が無理であるのに、一人で動こうとして、転倒の危険がある人には、ベット下に音楽のなるセンサーを置き、随時対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤等は手の届かない場所に保管し、包丁は夜間は鍵のかかる場所に保管している。針やはさみは、利用者が使用する時は付き添い、使用後は職員が確実に保管するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐために、個々に合わせた様々な工夫をしている。全職員が問題意識や危機感を持って日々の業務にあたり、事故後は原因の究明と今後の対応策を話し合い、再発防止に取り組んでいる。また、事故防止の勉強会も実施している。	○	気をつけていても転倒事故等が起こっている。利用者個々の身体機能の低下もあり、更なる配慮が必要である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に2回勉強会が実施され、緊急時の対応や応急手当など学んでいる。その他にも、随時に指導してもらっている。夜勤時は、マニュアルに沿って対応できるように周知徹底を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、利用者と共に避難訓練を行っている。1回は消防士に参加してもらい、初期消火から避難誘導、その他の留意点や全体的なことを指導してもらっている。	○	20年6月に防災マニュアルの土台ができ、具体的に細かいところまで記入している状態である。現時点で非常用品は備蓄できており、順次整えていく予定である。また、地域の方を交えた防災会議も開催した。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族様には、現状のリスクや抑制のない暮らしの大切さを理解していただいている。リスクについては、職員間でも十分に話し合い、適切な対応ができるように見直しを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの普段の状態や、持病などを把握しており、変化や異常の発見に努め、速やかに報告や対応ができることの重要性を理解し、実行できている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬内容が分かるファイルがあり、把握している。変更時には周知徹底している。確実な服薬のために二重のチェックをしている。また、状態観察や医師との連携に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食前に牛乳を飲んだり、十分な水分摂取、便秘に良い食材の使用に努めている。体操や散歩などの運動も心がけている。水分量を増やすことや、便秘解消のために寒天ゼリーを作り、毎日提供している。	○	手作りおやつを提供時にも、便秘に良いメニューなどを多く取り入れている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの力量や状態に応じた方法で、毎食後確実に口腔ケアを実施できている。義歯は夜間に洗浄剤に浸けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量とも記録し、把握ができています。特に食事量が少なくなっている方については、別途細かく記録し、医師に報告している。一人ひとりの咀嚼や嚥下、嗜好に合わせた食事を提供している。代替食も実施している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルがあり、定期的な勉強会を行っている。流行や対応等の新しい情報を取り入れ、予防に努めている。また、手洗い・うがいは徹底して行っている。外部からの入室者にも注意を促している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具やその他の調理に関する物品の消毒、乾燥などマニュアルどおりに実施している。自家農園で採れた野菜の使用や、買いだめをせず、新しい食材を使用している。	○	輸入食品による中毒症状などの報告があるため、注意が必要。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には木のベンチや手作りの表札、ドアを開ければ季節の花や手作りの壁かけ、熱帯魚などが温かい雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、季節の花や物品、利用者の作った作品を飾っている。ホールには畳を敷き、洗濯たたみをしたり、寝転がっているなど寛ぎの場となっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座って話をしたり、テレビを見たりと気の合う人同士、一緒に過ごしている。また、ベンチなどの座れる場所が何箇所もあり、一人で好きなように過ごすこともできる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物品、家族の写真、季節の花、畳の設置など一人ひとりの好みに合わせている。ご飯をお奉りしている方もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝窓を開け、空気の入替えを行っている。日中の換気は、随時または利用者の外出時に行っている。温度調節は、個々に合わせて行い、共用部は外気温との差に気をつけている。冬場は、加湿器にて乾燥しないよう気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやテーブル、椅子の配置、利用者の目の高さを考えたレイアウトなど配慮している。居室に洗面所、トイレがあることで、自らの排泄行為が可能になっている方もいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱する前に個々に合わせた声かけを行い、安心して暮らせるよう支援している。目印や物品、その他の環境の改善で落ち着くことがあれば、それぞれに工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	農園や洗濯・布団干し、干し柿や玉葱をかけたりと、日々の暮らしの中で活用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりの個性、心身の状態に合った支援が毎日の生活の中で行えている。農園には野菜を植え、利用者と一緒に育て収穫し、その野菜を調理して食べている。食事面では個人の嗜好を重視し、献立以外のものも調理している。また、手作りのおやつが提供できるよう努めている。排泄面では個々の排泄状況の把握に努めることにより、布パンプスの使用を実施できており、不快感の軽減に繋がっている。入浴は、夕方から就寝前の時間帯に行えているため、家庭に近い状態で支援できている。一日を通して、一人ひとりの生活のリズムやペースを大切に、家事や得意なことを中心に好きなように過ごしてもらっている。また、外出を楽しみにされているため、短時間でも散歩や買い物、ドライブができるよう対応することにより、笑顔が多く見られている。月2回の唄の会（音楽療法）も好評で、その日をとても楽しみに待っており、生き活きとした時間を持つことができている。職員は、利用者に対して常に尊敬と思いやりの気持ちで接し、温かい馴染みの関係ができおり、利用者同士でも、困ったことを相談し合う場面も見られ、良い関係ができている。開設6年目となり、マンネリ化を防ぎ、違った角度から見れるようにと、他のグループホームの見学も実施した。心機一転頑張っていきたい。